
.hack//G.U. new world

CROSS

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

hack／G.U. new world

【Nコード】

N9460A

【作者名】

CROSS

【あらすじ】

時は2017年：総プレイヤー1200万人を超す巨大ネットワークゲーム「The World」は変わらぬ人気を博していた：しかし最近PCをキルするPC：すなわちPKの横行によって平和の均衡が乱れてきた：そんなこの頃に：一人の少年が新規で初めて来たところから、この物語は始まる…

第1話（前書き）

どうなるやら…（　　）
—　　—
（　　）

第1話

「名前はなににしますか」

「えーっと…」

「ラバ」

「性別は」

「やっぱり…」

「男」

「タイプはなににしますか」

「んー…」

「人」

「ジョブはなににしますか」

「錬装士

斬刀士

魔導士

呪療士

銃戦士

拳術士

重槍士

撃剣士
鎌闘士
妖扇士
双剣士

「うわぁ～…沢山あるなぁ…
何にしようかな…ん～…」

……………

「これだな…」

「練装士」

「設定終了…ありがとうございました」

「ふう…終わったよ…」

「それではスタートです、お楽しみに…」

——カオスゲート——

ブワァン…

一人の練装士が降り立った…

名前は

「ラバ」

ラバ

「うわあ…！すごいなあ！」

周りには人が沢山いた

「ねえねえ、これとこれ交換しない？」

「ん？どれとどれだい？」

「パーティー組もうよ！」

「いいぜ！メンバーアドレスを教えてよ！」

ラバ

「すごいなあ！」

僕はカオスゲートを抜けて、街を歩いていた。

????

「君、初心者かい？」

ラバ

「えっ？」

目の前には人タイプの斬刀士と、獣人タイプの魔導士がいた。

ラバ

「はい、そうです！今日、始めたばかりで！」

????

「そおくなのおう？じゃああ、僕たちがあ教えてあげるよお♪」

ラバ

「ほんとですか！？ありがとうございます！よろしくお願いします
！」

????

「うん、よろしくね♪（笑）僕の名前はシラバスだよ」

????

「僕はあ、ガスパーだよお♪」

ラバ

「ラバです！よろしくお願いします！」

シラバス

「自己紹介も終わった所で…行きますか！♪」

ラバ

「はい！」

そして、僕はカオスゲートを抜け、戦いの基礎を覚えてもらった。

第2話（前書き）

遅くなりました＞m
〔
m＜

第2話

「The world」

カチッ

「BBS」

「めぼしい情報はないな…」

カチッ

「ログイン」

カチッ

ブワァン……

ラバ

「さて…と…今日はどうしようかな…」

僕は今日のすることを考えていた…

ラバ

「ショップを回って…アイテム集めたり…パーティーを組むかなあ…」

一人は辛いし：取りあえずはパーティを組んでくれる人を探そう！」

???

「何をしているんだい？」

ラバ

「え？」

後ろを振り返ると一人の男性が立っていた。

青い髪にサングラス（眼鏡かな：？）マントに左腕には筒みたいなものをつけていた。

ラバ

「いえ、なんでもないですよ。誰かパーティを組んでくれる人いないかなって思ってたんです。」

???

「そうか：では少し待っていてくれ：」

ピッピッピッ

男性はショートメールを送ったようだ。

???

「後少しで連れが来るから、少し待っているといい：」

さっしてくれたのか、男性は微笑みがそう言った。

ラバ

「あっ、はい。ありがとうございます。」

そして僕は男性の連れをまつた。

ピッピッピッ…

???

「ん？ ショートメール？」

どうやら、先程の男性が送ったメールは彼宛てだったようだ。

銀色の髪の毛に、漆黒の練装士…

???

「オーヴァンから：『今すぐに、志乃と一緒にカオスゲートに来てくれ』だって？…たつく…」

???

「どうしたの？ ハセヲ？」

奥の方から女の子が出てきた。

丸い大きい帽子、黒い髪の毛に白い服の呪癒士…

ハセヲ

「オーヴァンが俺たちにカオスゲートに来てくれだってよW…。も

ちろん、志乃も来いよ？」

志乃

「ええ、わかったわ。行きましょう。」

ハセヲ

「んじゃ、行くか。」

二人はカオスゲートに向かって、バイクを走らせた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9460a/>

.hack//G.U. new world

2010年11月15日07時25分発行